

シリーズ 統計でみる北九州

国勢調査の結果から

昨年10月に行われた国勢調査の速報値が公表されました。

北九州市の人口は93万9622人となり、5年前の調査と比べて、2万1千人余り減少しました。減少数としては、残念ながら、全国の市町村で最多になりました。

北九州市の人口は、1980年の106万5078人をピークに減少が続き、2005年に100万人を下回りました。その後も減少が続いており、今回の調査で、初めて94万人を割り込みました。

北九州市の人口と世帯数の推移

		人 口 (人)			世 帯 数 (世帯)			1 世 帯 当 たり 人 員
		総 数	対前回調査		総 数	対前回調査		
			増 減 数	増減率(%)		増 減 数	増減率(%)	
1965	S 40年	1,042,688	55,910	5.7	271,365	36,877	15.7	3.84
1970	45年	1,042,620	△ 68	△ 0.0	297,232	25,867	9.5	3.51
1975	50年	1,058,442	15,822	1.5	323,978	26,746	9.0	3.27
1980	55年	1,065,078	6,636	0.6	351,310	27,332	8.4	3.03
1985	60年	1,056,402	△ 8,676	△ 0.8	358,382	7,072	2.0	2.95
1990	H 2年	1,026,455	△ 29,947	△ 2.8	367,341	8,959	2.5	2.79
1995	7年	1,019,598	△ 6,857	△ 0.7	388,741	21,400	5.8	2.62
2000	12年	1,011,471	△ 8,127	△ 0.8	408,080	19,339	5.0	2.48
2005	17年	993,525	△ 17,946	△ 1.8	413,510	5,430	1.3	2.40
2010	22年	976,846	△ 16,679	△ 1.7	420,702	7,192	1.7	2.32
2015	27年	961,286	△ 15,560	△ 1.6	426,325	5,623	1.3	2.25
2020	R 2年	939,622	△ 21,664	△ 2.3	435,350	9,025	2.1	2.16

資料) 総務省「国勢調査」

行政区別では、人口が増えたのは小倉北区だけでした。小倉北区では18万3517人と、前回の調査より1639人増えています。

他の6区では人口が減少しています。

人口の減少率が最大だったのは八幡東区で6万4858人と、前回より3986人(△5.8%)減少しました。門司区も9万3899人で、前回より5738人(△5.8%)減少しています。また、減少数が最も多いのは八幡西区で25万72人と、前回より6012人減少しています。

『小倉北区の増加については、JR城野駅周辺でマンション建設や宅地造成がすすんでいること、また八幡東区の大幅減少は、高齢化率が36%余りと高く、自然動態によ

区別人口の増減

	2015	2020	増 減	
			増 減 数	増減率(%)
北 九 州 市	961,286	939,622	△ 21,664	△ 2.3
門 司 区	99,637	93,899	△ 5,738	△ 5.8
小 倉 北 区	181,878	183,517	1,639	0.9
小 倉 南 区	212,850	209,141	△ 3,709	△ 1.7
若 松 区	82,877	80,597	△ 2,280	△ 2.8
八 幡 東 区	68,844	64,858	△ 3,986	△ 5.8
八 幡 西 区	256,084	250,072	△ 6,012	△ 2.3
戸 畑 区	59,116	57,538	△ 1,578	△ 2.7

資料) 総務省「国勢調査」

り人口減少の傾向にあることが主要因』と、北九州市では説明しています。（NHK 放送より）

一方、世帯数は一貫して増加傾向にあります。

北九州市の発足直後の65年には27万世帯でした。人口がピークだった80年は、世帯数は35万世帯に増加しました。その後、人口が減少傾向に転じて、世帯数の増加は続き、2000年には40万台になりました。今回の調査でも、世帯数は43万5千世帯に増加。人口は2万2千人減少しましたが、世帯数は5年前より9千世帯も増えています。

人口が減少する中でも、世帯数が増加したことから、1世帯当たりの人員は減少しています。65年には3.84人だった1世帯当たりの人員は、85年には3人を下まわり、2.95人になりました。その後も減少傾向が続き、今回の調査では2.16人となりました。

東京都では、今回の調査で1.95人と全国最低で初の「2割れ」に突入しました。北九州市でも、10年後の調査では2人を下まわることも予想されます。世帯人員が2人を下まわることで懸念されるのは「一人暮らしの高齢者の増加」という指摘もあります。一人暮らしの高齢者は介護や医療が必要でも、家族のケアを期待するのが難しいケースが多くなります。

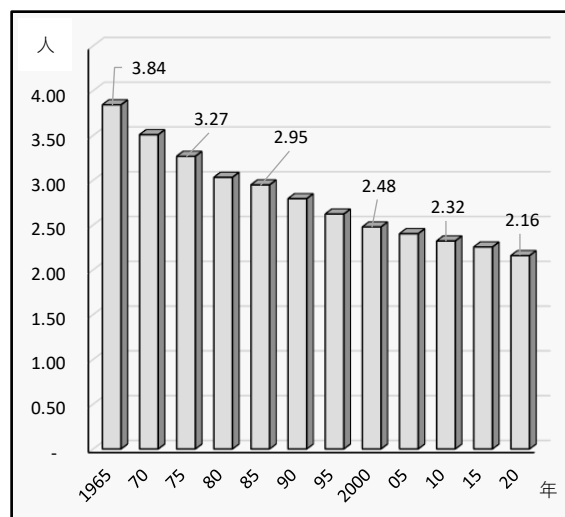
国立社会保障・人口問題研究所では、国勢調査を基に市町村ごとの将来推計人口を公表しています。最近（18年）の推計では、北九州市の10年後（30年）の人口は87万7千人と、今回の94万人よりさらに減少します。

これを年齢3区分別にみると、①15歳未満9万9千人（構成比11%）、②15～64歳48万4千人（同55%）、③65歳以上29万4千人（同34%）となります。

15年と比べると、①15歳未満13%⇒11%（2ポイント減）、②15～64歳58%⇒55%（3ポイント減）、③65歳以上29%⇒34%（5ポイント増）。北九州市では、世帯人員が2人を下まわるのが予想される10年後、さらに少子高齢化が進むこととなります。

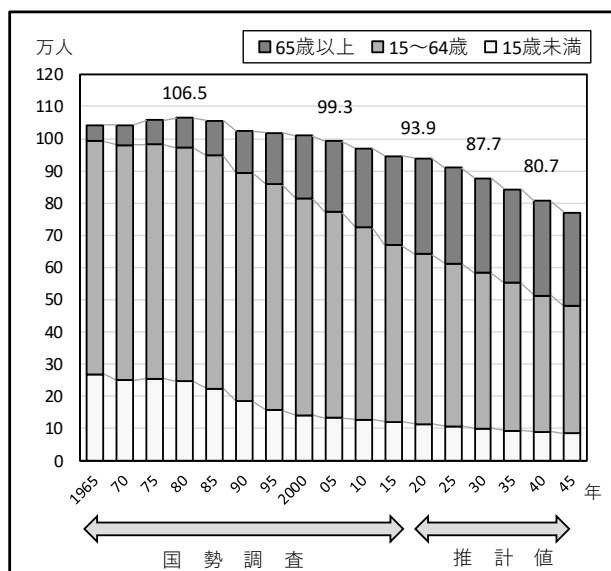
少子高齢化の進展、1世帯あたり人員の減少から、急速化する一人暮らしの高齢者の増加、これらを社会としてどう支えていくのか、ますます重要な課題となっています。

1世帯当たり人員の推移（北九州市）



資料) 総務省「国勢調査」

北九州市人口の推移と将来推計（年齢3区分）



資料) 総務省「国勢調査」 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」